

住宅危機—政治家は犯罪者だ

どうしてロンドンのアパートはミラノのアパートの何倍もするの？とイタリア人の同僚に聞かれました。

投機家：ロンドンでは空室だらけの豪華な高層マンションでいっぱい詰め込まれた状態です。

子供を学校へと送り出した後に、私たちの住むクラパムにお茶をしに来る若くてリッチなお母さん達を、私の夫がこう描写しました。彼女達はスマートなフィットネス用の服を着て、2000ポンドはするハンドバッグを持っています。彼は、彼女達の家族が所有していた川向こうのチェルシーのタウンハウスを10億ポンドで売って、今ではクラパムに移り住み、その家は2億ポンドだったと耳にしたそうです。

クラパムに居る人達のかわいそうなこと！私の近所の家族は、35年も住んだ後に区から立ち退くよう言われています！

そうすることで区は彼らの家を売ることができるからです。区は2つのポイントからこういうことをしているのです。一つは、中央政府が彼らの資金を半分にカットしたこと（緊縮財政）、もう一つは跳ね上がるほどに大きな住宅市場の価格をうまく利用しようとしていることです。（地域をばらばらにする、短絡的な思考、未来への問題を山積みになっています。）マーガレット・サッチャーが家主と借用者の条例を反古にして以来、家主は短期通知で容易に借用者を追い出せるようになりました。人々はこう言われます。ロンドンに住む金銭的な余裕がないものは誰でも出て行くべきだと。

イングランドの背景：英国と言うよりここではむしろイングランドと言いたいと思います。なぜならイングランドには有利な倫理的体系があるからです。イングランドはおそらく、世界のどの国よりも名声が高いでしょう。イングランド銀行は世界中の銀行と連絡が取れて24時間7日間取引できます。歴史的に、イングランド銀行は、大英帝国を持っていました。莫大な市場の富はイングランド銀行に搾取され、それがアメリカとその組織、NATOやWTOその他を通して独占企業へと譲り渡されました。それは世界で最も権力のあるアメリカの親友だというわけです。イングランドはアメリカにプロパガンダのトリック（我々は善良だ、だからお前達は悪者に違いない）と死の商取引を教えました。世界では英語が話されます。

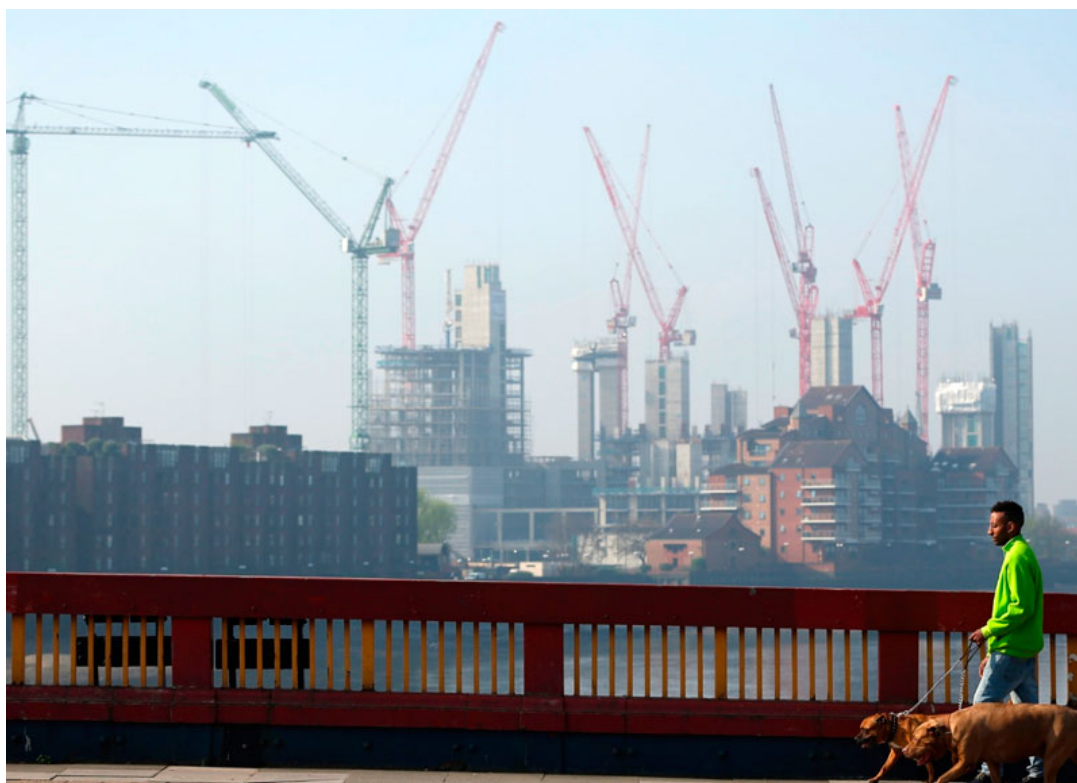
ロンドン、NY、そして東京が主な世界都市です。パリとフランクフルトはそこまで重要ではありません。かつてのアイディアは、テクノロジーを使って人々は在宅ワークができ、会計する人はインドに住むことができるということでした。しかしある程度のレベルでは、マネージャーやディレクター、プランナーや政策立案者は顔と顔を合わせて話をしなければなりません。本

部は、レストラン、ワインバー、フィピン人のシッター、フランス人のシッター、アーティスト、ギャラリー、クラブやジムといったそのインフラを必要とするのです。このようにロンドンは清潔で派手で、リッチで、この地球上で最もトレンドイヤーで、コスモポリタンな、さらにそれ以上の場所へと成長しました。

投機家にとって、ロンドンに住むのに安全な場所です。それは、今は手に負えない負債をベースにした（現状無敵の）間違いだらけの政治的、または金融的システムに守られています。保守党、連立政権は、世界経済を支配し、操作する民間銀行である中央銀行のペットなのです。この5年の間に、政府は今までの負債の2倍の、700億ポンドもの借入れをしました。

私たちの政府が優先しているのは投機家を手助けすることです、しかし地球の有限である宝を消耗することをもとに投機家は資産を築いてきたので、それらを投資できる資産がわずかしか残っていません。そういう理由で、資産は工作されなければなりません。例えば、化石燃料：化石燃料の20%以上を抽出するならば、私たちは地球温暖化により死んでしまうというのに、投資目録は、全ての利用可能な化石燃料の100%で資産を表します。これらは、今は凍結資産とみなされ、投機家は処分しています。今では、負債は制御できなくなりました。特権のある世界で生きる最貧困の人達は、負債のもとに生きているのです。投機家は、抽出した利益から、他人の負債からと、余計な資本を持ち過ぎています。そして彼らはそれを投資できる所を探さなければならないのです。

投機家のためのロンドンの住宅ブームは、また別の工作です。住宅は空室の状態です、それからも分かるように、これらの住宅は、本当に価値がないのです。人が住むまではそこには真の価値がありません。政府が、ついでにアパートを建設しますと書いた公債を発行したら、実際にはアパートが建設されるなんて迷惑を誰も被らなくて済むでしょうに。



ナイン・エルムス再開発の様子。これが 20 億ポンドの豪華なマンションへと変貌するのです。ダン・キットウッド/ゲッティ・イメージズより

その一方で、ロンドンは大惨事の状態にあります。英国防省、近衛兵の兵舎だったチェルシー・バラックスには、建設のため今は、最も高価で巨大な穴が掘られています。オーナーはサウジです。輪郭はまだ完全には見えませんが、どこもかしこも、ピカデリー沿いの壮大な家々も含めて、彼らは古い建物を取り壊しています！そしてタワーマンションを建てているのです。5分おきに1フロア完成されていくに違いありません。クレーンがどこにでもあるのですから。クレーンの赤いライトで夜空はいっぱいです。

オックスフォード・ストリートの、道路は閉鎖されていましたが、自転車で通ってみました。ロンドン道路は道路工事ばかりで酷いものです。他の都市とは違って、配管やケーブルは地下にあります。それでしょっちゅう道路は掘り起こされています。パリでは、下水管を使い、ミラノではケーブルやワイヤーは高い所にあります。今では、建物の取り壊しや建設で、道路はさらに閉鎖されています。

ヴェジタリアンのインド料理が食べられるレストランがある、ソーホー・スクエアへと繋がる通りを探していました。そしてその通りに来てみると、そこには、巨大な四角い穴がありました。スクエアはもうなくなってしまったのだと私は思いました。それで足場の下に、青のビニールシートが引っ掛けてある通路まで行くと、そこにソーホー・スクエアが現れました。ラッキーなことに。

人々はそれを嫌っています。みんなそんなの嫌ですよ。破壊するのを止めてちょうだい！私たちはこんな巨大なゴミなんて欲しくないのよ。かつて人々が幸せそうに住んでいた家々は、繁盛していた町にある一つの部屋だっ
てなくなっていつているのです。クラブや居酒屋も、なくなるか引っ越して
しまうか。私たちのスタジオの近くにスペースがあるのですが、ロイヤル・
カレッジの彫刻部門の隣で、テムズ河沿いで、ボート、バーや、卓球台、ボ
クシングクラブ、みんなが集まれる場所があります。建物にはタイルを貼っ
た階段があり、かつては倉庫だったのですが、今はオフィスや劇場がありま
す。さようなら、ドゥードゥル・バー！

ブリクストンでは、黒人達が人種差別反対のデモをしました。なぜなら、
彼らの家はなくなっていき、住む場所を確保する金銭的余裕がないからです。
ラッセル・ブランドは、立ち退きを拒否している公団住宅に住む女性達を、
うまく手助けしました。そう、それがアイデアなのです。公団住宅を取り
壊すこと。しかしながら、家を必要とする人達が非常にたくさんいるので、
どの政党も住宅を建設すると約束しています。短絡的な経済！ナポレオンは
言いました。「イギリス人は商人の気質がある民族だ」と。彼は、イギリス
人は自分達のお祖母様までも売ってしまうことを意味したのです。

コミュニティーを粉々にして、問題を積み上げ、未来にかかる費用。私たち
に何ができますか。政治家は犯罪者です。あなた方が信じるものに投票して
下さい。戦術的な投票は馬鹿げています。投票の後、全ての問題と戦って下
さい。デモをしましょう。公開討論をしましょう。人々と話しましょう。ソ
ーシャル・メディアは、政府が人間性に反して犯罪を犯していることに対す
る反対の波を築いてくれます。話して、話して、自分自身に情報を与えて下
さい。そして最も重要なことは、あなた自身の顔を見せることです。デモを
しましょう。反対勢力を築いて、そこからどうなるか見てみましょう。